

■防団協の研究試験結果発表される

防火壁装材は性能に余裕あり、自信を持ってお薦めできる安全安心の防火仕上

壁装施工団体協議会は4月下旬に、防火材料等関係団体協議会の研究によって、防火壁装材料はいずれも十分余裕ある性能を有していることが明らかにされたことを会員に報告した。これは、防団協が3月30日に虎ノ門発明会館で行なった「防火材料等の防火性能に関する試験・研究分科会・報告会」の内容を当日の配付資料も添付して報告したものの。

防団協は「防火材料のより詳細な防火上の情報をユーザーに提供する」ことを目的に、平成20年から前記分科会で研究を行ってきた。

研究では、防火認定を受けた各種の材料が認定の条件に定められた性能値よりどれくらい余裕があるのかも調査された。

また、防火材料の試験についても、海外の試験・評価方法も調査・研究し、その方法での試験も行ない、わが国の基準との関連等も研究された。

採用された防火試験は次の各種である。

- ・コーン計試験(防火認定に多用されている。)
- ・不燃性試験(旧認定時の基材試験機と同じ。)
- ・模型箱試験(小型の実大火災試験機。)
- ・SBI試験(中規模の実大火災試験方法、EU各国で用いられている。)

配付資料には、各種の防火材料をこの4種類の試験で調べた結果が紹介されており、かつ、その結果を、規定の性能値に対してどれだけ余裕があるのかを計算する方法も紹介されている。

ここではその中から防火壁装材料だけを抜き出して報告してみる。

先ずコーン試験では別掲表で分るとおり、準不燃材料が、不燃材料用の20分試験を行なっても20%~36%の余裕があり、準不燃の規定の10分では39%~50%の余裕がある。

模型箱試験では、難燃材料も準不燃材料の試験時間の10分で44%余裕がある。

不燃性試験では、不燃材料のみが試験されているが、93%以上の余裕があったとされている。

SBI試験の結果も、いずれも余裕度ありと記載されている。

配付資料では、消費者の選択に供する情報化には更に研究が必要であるとしているが、現段階で得られた結果だけでも、防火壁装材料にとっては安心して頂けるレベルにあることが分った訳で、取扱い関係者は自信と誇りをもって「安心・安全の防火仕上げ」をお薦めできるものと言えよう。

防火壁装材料の試験結果・コーン試験結果(発熱量)と余裕度

試験体	総発熱量(MJ/m ²)			余裕度 (%)		
	5分	10分	20分	難燃級	準不燃級	不燃級
不燃材料	4.21	4.21	4.74	47%	47%	41%
ビニル壁紙 240g/m ² (基材・不燃石こうボード 12.5mm)	3.86	4.22	5.6	52%	47%	30%
	4.12	4.2	5.13	49%	48%	36%
準不燃材料	4.74	4.84	6.05	41%	40%	24%
ビニル壁紙 290g/m ² (基材・準不燃石こうボード 9.5mm)	4.62	4.86	6.39	42%	39%	20%
	3.94	4.04	5.14	51%	50%	36%
難燃材料	6.93	7.85	10.15	13%	2%	*
ビニル壁紙 450g/m ² (基材・準不燃石こうボード 9.5mm)	7.16	8.04	10.15	11%	0	*
	6.9	7.64	9.25	14%	5%	*

試験体	余 裕 度(%)		
	5分	10分	20分
不燃材料 (コーン試験と同じ)	70%	49%	26%
準不燃材料(コーン試験と同じ)	69%	49%	—
難燃材料(コーン試験と同じ)	64%	44%	—

注意)本書を無断で転載することを禁じます。